（別紙4（2））

事業所名 ： グループホーム あまね

作 成 日 ： 令 和 3年 4月 22日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題の焦点化が難しくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6(5)	これまで奇数月に開催する運営推進会議にて身体拘束について、意見を求めていたが今年度は、新型コロナウイルス感染対策で面会制限が続き文書で報告し、意見を求めた。その結果、第三者の意見が求めにくく、検討会議は返信のあった第三者の意見を参考に職員のみで実施せざるを得ない状況があった。前もって資料を郵送するが、期限内に返信を頂くことや全員からの意見を求めることは難しい状況があった。	身体拘束をしない介護を目指し事業運営していくため、身体拘束適正化に向けて、職員一人ひとりが知識や技術を磨いていくことを前提とし、第三者からの意見を求め適正化に努める。	①身体拘束をしない介護を実践していくために職員を対象に定期的な勉強会の実施、外部への参加等により知識と技術を深める。 ②第三者からの意見を確実に求めるための取り組みとして、文書での開催の際は、返書の内容に工夫を行う。（FAXやLINEの活用も依頼したが、意見を抽出できなかったため往復はがきの活用を検討してみる。） ②身体拘束適正化に関する指針の検討委員会の構成員に第三者の参加として運営推進会議委員も追加する。	12 か月
2	27	職員はシフト勤務になるため次のケアにつなげられるように観察した内容を個人記録に残すようにしているが、職員の配置によっては、外国人で日本語がわからず記録ができないことや、出来事を文章化することが難しく、記録に抵抗がある等、記録に時間がかかり、ケアに支障となっていることが見受けられる。	利用者の様子を次のケアにつなげるために進んで記録を行うことができる。	チェック式や図などを取り入れ、利用者の精神面や活動の様子、健康面の把握がしやすいように実行表の内容を吟味し、誰でも抵抗なく記録ができるような書式を検討し取り入れる。	12 か月
3					か月
4					か月
5					か月

注）項目の欄については、自己評価項目の番号を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。